

広報 じちしん

● 自治振興協議会連合会だより ●

▶ 第25号 ◀

【編集・発行】福島市自治振興協議会連合会
 【事務局】福島市政策調整部 地域共創課内
 電話024(525)3731



一段一段確実に

地域の明るい未来のために

各地区会長、委員の皆さま
 (令和5年11月22日撮影)

会長あいさつ



福島市自治振興協議会連合会
 会長 吾妻雄二

「自治振興協議会連合だより」の発行にあたり、市内28地区の地区自治振興協議会組織の連合会長として、一言ごあいさつを申し上げます。

まずは、本年1月1日に発災した「令和6年 能登半島地震」につきまして、東日本大震災という、同じ「震災」の影響を受けた私たちにとっては、悲痛の念に堪えません。被災された方へお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

さて、自治振興協議会は、昭和32年より実施している福島市独自の制度で、市民と行政が共創の担い手として、地域ごとの課題や将来像などについて、直接意見を交換し、安全安心なまちづくりに取り組んでおります。

長らく影響を受けた新型コロナウイルスも、令和5年5月に感染症法上の分類が季節性インフルエンザ等と同様の5類となり、徐々に自治振興協議会本来の意見交換の形が戻ってきたことに安堵しております。多くの方に参加をいただき、地域課題の解決に向けて多様な意見交換ができた事に、感謝申し上げます。

おわりに、地域の皆さまが安全で安心して暮らせるまちづくりのために取り組んでまいりますので、引き続き皆さまのご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

市長あいさつ



福島市長
 木幡 浩

本年は、能登半島地震、航空機の衝突事故と、災いが続く乱の幕開けとなりました。亡くなられた方々に哀悼の意を表するとともに、被害に遭われた方々に心からお見舞いを申し上げます。一日も早く生活再建と地域の再生が進むことをお祈りいたします。

昨年、福島市は、夏の大相撲荒汐部屋の合宿、秋の全早慶野球戦などにより、ムードが上向き、コロナ禍からの回復が進んできました。観光客数と移住者数が、過去最大の昨年度を上回るペースで推移するなど、コロナ禍でも手を休めなかった政策的効果は、広範な分野で着実に表れてきています。

一方、ウクライナやパレスチナなど紛争が絶えず、人口減少が加速する中、異常気象や災害は身近に危機をもたらし、物価高騰などの経済情勢は市民生活や事業活動を圧迫するなど、福島市のまちづくりに、大きな影響を与えています。

しかし、このような状況なればこそ、未来への希望を描きながら、積極果敢に政策展開と変革を図り、上昇の流れを定着・強化し、beyondコロナの新しいステージが見えるようにしてまいりたいと思います。自治振興協議会の皆様と連携しながら、安全安心、子育てと教育、市民誰もの元気づくり、産業振興、賑わいと文化、デジタル化、ゼロカーボン、移住・定住と女性活躍を柱として、一層の創意工夫を講じながら市政を推進してまいります。ご理解とご協力をお願いします。